



長岡の皆さんにはご存じのとおり、長岡の真ん中には日本一の信濃川が流れています。新潟と長野という雪国を流れる信濃川はこの時期、山を覆っていた雪の雪解け水が、多くの山の支流から流れてきて最後は日本海まで流れます。

長岡では、川を挟んで西側と東側にわかれて、川西、川東地域なんていう呼び方をしていま

すね。

長岡花火のときには、川東と川西でどっちがきれいに見えるかなんて、それぞれの地域ごとに意見がわかれることもあります。

もっと言えば、方言も違うなんていう説も。

(セミの幼虫のことを「わんず」と言ったり「わんざ」といったり、抜け殻のことだったり笑)

そんな文化の違いもまた、会話の楽しみであったりしますね。

この西と東をつないでいるのが、信濃川に架かる7つの橋です。

(長生橋・大手大橋・長岡大橋・蔵王橋・越路橋・与板橋・フェニックス大橋)

昨年フェニックス大橋ができて、長岡の東西も行き来がしやすくなりました。

フェニックス大橋という名前も、最初はプロレスラーの名前みたいだなあと感じていたが、もうすっかり聞きなれて馴染みの橋になりつつあります。

このそれぞれの橋、もちろん生活に欠かせないもので、交通網としての機能も素晴らしいんですが、この橋がある景色って、とてもきれいだと思いませんか？

橋のたもとで写真を撮っている方もよく見かけます。

長生橋は、多連・上曲弦方式のトラス橋として日本で唯一現存している橋で、その佇まいが美しいですね。

また、長岡大橋や大手大橋を西から東に渡っているときに見える東山連峰は、山の力を感じさせる壮大な景色です。

フェニックス大橋なんかは、夜になると橋が光って、少し離れたところからも光のアーチが美しいものになっています。

みんなそれぞれに橋の見どころで好きなシチュエーションを持っているんじゃないでしょうか。

そんな視点で、花火以外の時にも長岡の生活道である橋を眺めてみてはいかがでしょうか。